

p 24 「一問一答」

1. 中枢神経系は、脳と脊髄から構成される。
2. 交感神経系は、体が食事や休憩等の安息状態となるように働く。
3. 副交感神経系の神経伝達物質は、ノルアドレナリンである。
4. 交感神経が優位になると、肝臓のグリコーゲンが分解されてブドウ糖に変わり、血糖値が上昇する。
5. 交感神経が刺激されると、気管支は収縮する。
6. 副交感神経の働きが抑制されると、瞳孔は散大し、目のまぶしさやちらつきを生じる。
7. 膀胱では、交感神経系が活発に働くと、排尿筋が収縮されて排尿が促進される。
8. メチルエフェドリン塩酸塩は、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人は使用を避けることとされている。
9. アドレナリン作動成分を含む点鼻薬を過度に使用すると、鼻粘膜の血管が敏感に反応し、鼻づまりが楽になる。
10. 末梢神経は、随意運動、知覚等を担う体性神経系と消化管の運動や血液の循環等のように生命や身体機能の維持のために無意識に働いている機能を担う自律神経系に分類される。
11. 汗腺を支配する交感神経線維の末端では、アセチルコリンが伝達物質として放出される。
12. プソイドエフェドリン塩酸塩は、鼻粘膜の充血を和らげるアドレナリン作動成分である。
13. プソイドエフェドリン塩酸塩は、他のアドレナリン作動成分に比べて中枢神経系に対する作用が強く、副作用として不眠や神経過敏が現れることがある。
14. 結膜を通っている血管を拡張させて目の充血を除去することを目的として、ナファゾリン塩酸塩が配合されている場合がある。
15. 一般用医薬品としては、抗アドレナリン成分とコリン作動成分が使われることが多い。

【解答】

1. ○
2. × 交感神経系は、体が闘争や恐怖等の緊張状態に対応した態勢をとるように働く。
3. × 副交感神経系の神経伝達物質は、アセチルコリンである。
4. ○
5. × 交感神経が刺激されると、気管支は拡張する。
6. ○
7. × 交感神経系が活発に働くと、排尿筋が弛緩されて排尿が抑制される。
8. × 前立腺肥大による排尿困難のある人は使用を避けることとされているのは、ブソイドエフェドリン塩酸塩。
9. × アドレナリン作動成分を含む点鼻薬を過度に使用すると、鼻粘膜の血管が反応しなくなり、かえって鼻づまりがひどくなる。
10. ○
11. ○
12. ○
13. ○
14. × ナファゾリン塩酸塩は、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去する。
15. × 一般用医薬品としては、アドレナリン作動成分と抗コリン成分が使われることが多い。